

楽読  
(ラクヨミ) Vol.  
1,634消費関連セクターを牽引役に、  
コロナ禍でも堅調に推移する中国本土株式市場nikko am  
fund academy

楽読(ラクヨミ)

2020年3月以降、世界各地でコロナ禍に伴う混乱が続く中、中国本土株式市場は概ね堅調な推移となっています。足元で、CSI300指数\*は2015年来の高値水準で推移しており、その主な牽引役が消費関連セクターです。

市場が堅調な要因の一つとして、中国の相対的に堅調な景気回復が挙げられます。主要国・地域が4-6月期に前年同期比で大幅なマイナス成長となる中、世界で最初に感染が拡がり、1-3月期にマイナス成長となった中国の4-6月期成長率は市場予想を大きく上回る+3.2%となりました。また、こうした景気回復に加え、新型コロナウイルスの新規感染が一定の水準で抑えられていることなどを背景に、国内消費には緩やかな改善がみられます。

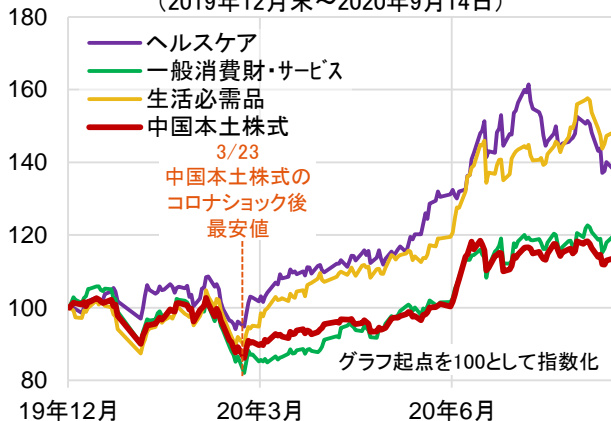
国内消費に関しては、政策面での後押しも追い風となっています。中国政府は、近年の米中対立の悪化や保護主義的な動きの広まりなど外部環境の不透明感を背景に、国内消費の拡大を重視する考えを示し、様々な支援策を打ち出しています。昨年来、国内消費の拡大などを狙った企業や個人の税制改正に動いているほか、規制事業である国内免税店に対して、事業者免許の拡大や、中国の人気観光地である海南島での免税上限引き上げなど、従来中国国民が海外で行っていた消費を国内に呼び戻す政策も発表・施行されました。

こうした中、7月の共産党中央政治局会議で言及された「国内大循環」が関心を集めています。これは、米中対立の長期化を前提に、成長の柱として、海外ではなく、国内の消費や市場、企業を優先する新たな戦略と捉えられています。習近平国家主席が8月下旬、2021-25年の中期経済目標「第14次5か年計画」の策定に向けた会議で、国内大循環による内需主導の発展を目指す考えを示したことで、中長期的に続く投資テーマとして、市場の注目を集めています。

さらに、中国では近年、「国潮(こくちょう)」と呼ばれる中国の伝統文化やデザインを再評価する動きがトレンドとなっており、中国ブランドが選好される傾向がみられます。9月に入り、米国を中心とした株式市場の下落に伴う投資家心理の悪化を受け、中国本土株式もやや軟調となっているものの、政策面の後押しに加え、こうした中国国民の嗜好の変化などを背景に、中国消費関連企業の今後の成長とそれに伴う株価上昇が期待されます。

## 消費関連セクターを中心に、堅調に推移

＜中国本土株式と同セクター別株価指数の推移＞  
(2019年12月末～2020年9月14日)

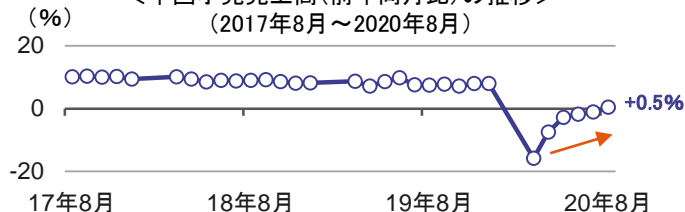


※中国本土株式はCSI300株価指数、各セクターは同指数のセクター別株価指数、いずれも現地通貨ベースを使用  
※信頼できると判断したデータをもとに、日興アセットマネジメントが作成  
※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

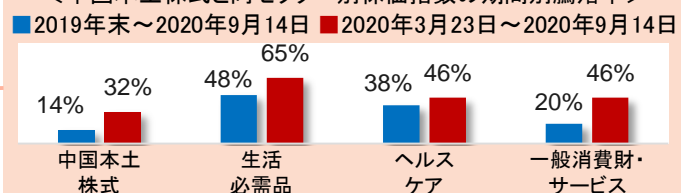
\*上海または深セン証券取引所に上場のA株、300銘柄で構成される株価指数

## 今後の回復が期待される国内消費

＜中国小売売上高(前年同月比)の推移＞  
(2017年8月～2020年8月)



17年8月 18年8月 19年8月 20年8月  
＜中国本土株式と同セクター別株価指数の期間別騰落率＞



■ 当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。